

TOSA REHABILITATION COLLEGE

TOSAREHA

未来会



Contents

- 28期生新入歓迎会
(高知健康科学大学開学お祝い会)のお知らせ
- 定期総会・勉強会
- 27期生歓迎会のお礼
- 新人(27期卒)からの一言
- 学術部からの“報告”と“お知らせ”
- 未来会会員の活躍
- 書籍紹介・論文紹介
- 公益信託高知新聞・高知放送 生命の基金
- 学会の報告とお知らせ
- 第21回 日本神経学療法学会・
日本神経学療法学会地方会に参加して
- 第51回 四国理学療法士学会を終えて
- 第37回 高知県理学療法学会 開催にあたり
～理学療法の未来図～
- 第24回(2024年度)
認知神経リハビリテーション学会学術集会のご案内
- (一社)日本作業療法士協会 理事就任
- PT・OT協会ならびに各都道府県士会での役員紹介
- MTDLP推進協力強化校の承認
- 認定PT臨床認定カリキュラム教育機関が開催されるまで
- 理学療法学科7期卒の同窓会
- 同窓会補助について
- 高知健康科学大学 開学
- らくらく連絡網への登録のお願い
- LINEへの登録のお願い

機関紙

No. 26

2024. Spring

28期生新入歓迎会

(高知健康科学大学開学お祝い会)のお知らせ

令和6年3月9日(土)、第28回目の卒業式が挙行されます。本年度は、理学療法学科25名、作業療法学科24名が卒業し、新たな人生の第一歩を歩み始めます。また、昨年10月に文部科学省より設置認可を受け正式に開学が決定した高知健康科学大学は、4月4日(木)に入学式が執り行われ1期生を迎え入れる予定です。土佐リハが発展的に継承した新しい大学の誕生に際しては、未来会会員からの多くの寄附金が集まり、学校名は変われど「未来会」としてのつながりは変わることなく続いていくということを改めて認識することができました。

そこで、長らく我々を苦しめてきた新型コロナウイルスが昨年5類に移行したことも鑑み、未来会執行部一同で熟慮した結果、今年は5年ぶりに“対面”での歓迎会ならびにささやかな開学お祝い会を兼ねて開催する決断に至りました。県内・外の新卒生は勿論ですが、ベテランの卒業生も含めた多世代型の交流ができることを楽しみに鋭意準備を進めて参りますので、是非ご参加のほどよろしくお願いいたします。

【日時】 令和6年6月22日(土) 19時～

【場所】 土佐しっぽく 葉山

高知県高知市はりまや町1-6-1

TEL 088-882-6670

店舗QRコード

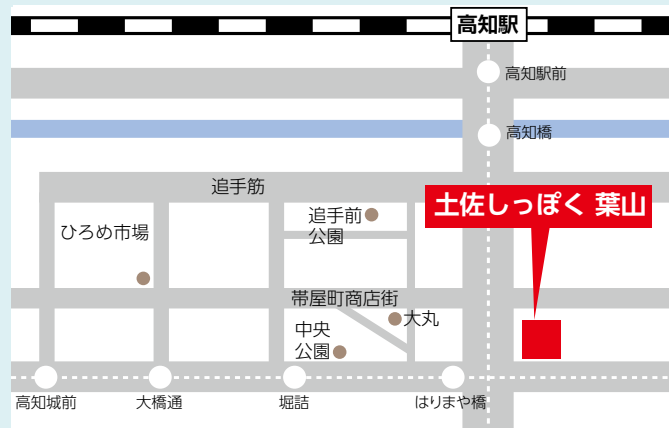


【会費】 4,000円(28期生は無料)

(未来会より1,000円の補助を含む)

24～27期生▶3,000円(コロナによって対面での歓迎会が未実施のため、2,000円の補助を含む)

※6月22日は土佐リハビリテーション
カレッジ開校記念日
(竹林会長の誕生日です(^^))



全会員、定期総会アンケート(下記QRコード)よりご回答ください。

アンケートの切
5/17(金)



<https://forms.gle/tTZiXw5ApcpzJEco8>



定期総会・勉強会

【日時】 2024年6月22日(土) 定期総会: 14:00～14:30
勉強会: 14:30～16:30

【場所】 土佐リハビリテーションカレッジ(高知健康科学大学) 講義棟3階 305中講義室

【テーマ・講師】

『歩行の基礎と高齢者の歩行特性』 榎 勇人 先生(PT1既卒:徳島文理大学)

『先行研究から学ぶ「適切な感覚入力」の使い方～対象者により良い作業療法・理学療法を提供するために～』

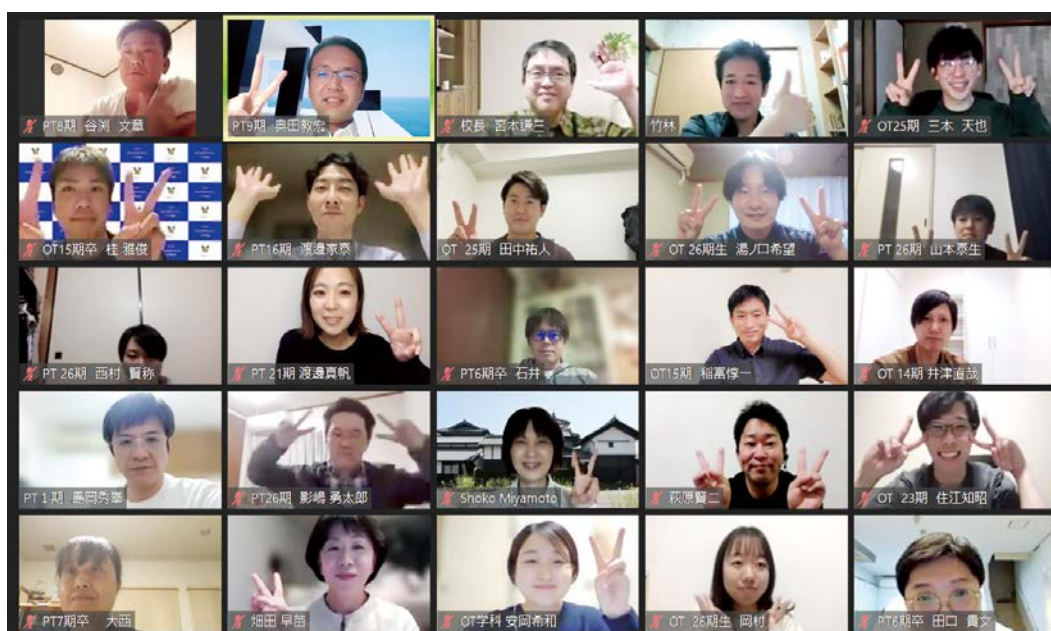
稲富 惇一 先生(OT15期卒:土佐リハビリテーションカレッジ)

ハイブリッド開催(対面+Zoom)。Zoomの詳細は後日、メールでお知らせいたします。

27期生歓迎会のお礼

土佐リハビリテーションカレッジ未来会の皆様、お忙しい中27期生の歓迎会を開いていただき誠にありがとうございました。コロナ禍ということもありZoomでの開催でしたがたくさんの方々から27期生を温かく迎え入れてくださり、人とのつながりの大切さや未来会の先輩方の優しさを感じた貴重な経験となりました。また、至る所で活躍されている先輩方のお話を聞くことで、入職したばかりの私たちに臨床でのありかたを示してくださいました。入職したばかりで不安な私たちにとって大変大きな励みとなりました。私たち27期生も早く先輩方に追いつけるよう、セラピストとしてスキルアップできるように日々精進して参ります。未来会の皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

三豊市立西香川病院 杉本 敦希 (PT27期卒)



新人(27期卒)からの一言

自分自身も自律していくこと

高知ハビリテーリングセンター

青木 菜緒(OT27期卒)

私の職場は利用者の自律を目標とした多機能型の施設です。その中で、私が所属している部署は県内では珍しい「機能訓練部」というところです。

ここでは、心身機能を良くするだけでなく、一人暮らしや就労など「利用者主体」で自律に向けた目標を持ってステップアップしていく、またそれらを看護、介護、リハ、就労など全ての部署が一丸となって利用者一人一人を支えており、それらに魅力を感じながら、日々の業務に励んでいます。

自分で選んだ道でありながら、新卒から病院ではなく地域に寄り添った施設で働くという事に対して、知識面や自身の在り方について、やや不安はありました。部署へ配属されて半年以上たった今で

も、新しく学ぶことがまだまだ多いです。

次から次に出てくる壁に日々疲弊しそうになっていますが、自分自身の出来ているところ足りないところを定期的に自己評価し、自身を認めてあげることが大事にしています。また、それらを客観的に評価してくれる先輩・上司がいること、会ってなくても自分を気にかけてくれる友達がいることで、より頑張れている気がします。

これから先、良いことや大変なことなど、どんなことがあるかは分かりませんが、とりあえず、自分の明るさや誠実さを武器に頑張っていこうと思っています。



臨床一年目を振り返って

藤田医科大学 七栗記念病院

竹林 諄(PT27期卒)

現在、回復期リハビリテーション病棟で中枢神経疾患を中心とした様々な患者様の介入をさせていただいています。

入職時には臨床実習が新型コロナウイルスの影響で短くなり、臨床経験が少ないことから不安を感じていました。しかし、先輩療法士の方々が丁寧に指導していただいたことで、自信を持って患者様に接することができています。

臨床で難しいと感じていることとして、考えることの多さがあります。患者様の介入内容や必要な装具・補助具、退院後の生活へのアプローチや導入するサービスなど、初めて経験することが多く難しさを感じています。そんな中、他種職や先輩療法士の方々に相談し、アドバイスをいただく事で自分自身にはない視

点で考え方を得ることができ理学療法士として、成長できていると感じています。

また、4月からは2年目となり先輩と

して後輩に指導する立場となるため、今まで先輩方に教えていただいたことや私自身が悩んだこと、それをどう乗り越えたかを後輩に伝え、少しでも助けになりたいと考えています。

最後に理学療法士としてまだまだ未熟なため、これからも日々自己研鑽を重ねて最善の治療を提供できる理学療法士を目指していきたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



学術部からの“報告”と“お知らせ”

報告

令和5年度 未来会 勉強会実績報告

令和5年度に未来会では、以下のような内容で勉強会を開催しました。一部ではありますが、約4年ぶりに対面（ハイブリッド）勉強会も開催することができました。今後も出来る限りこのような機会を増やし、会員全体のレベルアップや交流につながればと思っています。



(令和5年4月22日:リモート勉強会の様子)

第1回	3月23日(木)	『多職種連携で「つなぐ」脳卒中片麻痺者の下肢装具に関するフォローアップ』 石野泰央先生 (PT10期卒: 静岡リハビリテーション病院)
第2回	4月22日(土)	『地域連携におけるセラピストの役割 ～病院、デイサービス、訪問リハビリの経験を経て～』 金山剛先生 (PT9期卒: 株式会社PMP訪問看護リハビリステーション ぼっちり) 『座位姿勢と注意機能の関連性～体幹を前方から補助するという視点～』 花田智仁先生 (OT14期卒: 松山リハビリテーション病院)
第3回	6月5日(月)	『学校教員と作業療法士との連携』 吉岡和哉先生 (OT10期卒: 群馬パース大学)
第4回	7月24日(月)	『脳卒中の装具のミカター入門編』 井上鮎佳先生 (PT21期卒: 東浦平成病院)
第5回	9月28日(木)	『地域における小児領域の取り組み～起業の経緯から実践の内容～』 梶谷治夫先生 (OT6期卒: 株式会社長浜リハビリテーションサービス)
第6回	1月12日(金)	『シンポジウム: 精神科領域における作業療法の取り組み』※ 中井智樹先生 (OT25期卒: 土佐病院)、柳本由美先生 (OT25期卒: 岡豊病院)
第7回	2月22日(木)	『訪問看護ステーションでのリハビリについて』※ 伊井雄基先生 (PT14期卒: 高知中央訪問看護ステーション)

※ハイブリッド開催

お知らせ

令和6年度 未来会勉強会計画案

令和6年度の勉強会の予定は以下の通りです。是非、全国各地からご参加ください。詳細は開催1か月前を目途に未来会ホームページや公式LINE、Facebook、らくらく連絡網等にてお知らせします。企画したテーマ以外にも、「こんなテーマの勉強会がしたい」、「〇〇先生の講義が聞きたい」などの希望がありましたら、忌憚なく事務局までご連絡ください。

第1回	4月(予定)	『石川県能登半島地震におけるDMATの活動報告』 森下誠也先生 (PT6期卒: 田野病院)、武田陽平先生 (PT10期卒: 高知赤十字病院)
第2回	6月22日(土)	『歩行の基礎と高齢者の歩行特性』 榎 勇人先生 (PT1既卒: 徳島文理大学) 『先行研究から学ぶ「適切な感覚入力」の使い方 ～対象者により良い作業療法・理学療法を提供するために～』 稲富惇一先生 (OT15期卒: 土佐リハビリテーションカレッジ)
第3回	8月(予定)	『ベンチャー企業における作業療法士の働き方』 岩本梓方子先生 (OT23期卒: 株式会社Ecold)
第4回	10月(予定)	『歩行についてーバイオメカニクスと神経系ー』 中澤海斗先生 (PT22期卒: 細木病院)
第5回	12月13日(金)	『橈骨遠位端骨折に対するスプリント療法』 細川和樹先生 (OT24期卒: 田中整形外科病院)
第6回	2月(予定)	『下肢疾患 (ACL、半月板) など整形外科疾患に関して (仮)』 篠田果歩先生 (PT24期卒: 船橋整形外科西船クリニック)

未来会会員の活躍

大学院修了が人生の再出発となった

吉良 正輝 (OT15期卒)



土佐リハ卒業から約10年の月日が経った頃、私は大学院への進学を決意した。そして、高知県立大学大学院への入学を果たした。「あと半年で卒業」という時に、私は、くも膜下出血を発症した。現在では、重度の高次脳機能障害（記憶障害、遂行機能障害）が残存している。回復期病院を退院後は、大学院への

復学を諦めていた。「薬を飲んだか否か」すら覚えられない状態で、復学は無理だろうと思っていた。しかし、担当教授の力添えの結果、なんとか修了することができた。発症後は、研究テーマを大きく変更し、「脳卒中の後遺症である記憶障害を有する者の生活の不自由を改善させる reminder」とした。そして現在では、ピアグループをはじめとする様々な活動に「当事者として」参加している。そこで、高次脳機能障害当事者やその家族へ生活の不自由を改善する方法を提案したり、私の経験則に基づいて困難を克服する方法を伝えている。私の経験が、少しでも人の役に立てると嬉しい。そして、「弱点」だった障害を「強み」に変え、日本のみならず海外での活躍も目指している。

3学会合同呼吸療法認定士の資格を取得して。

福岡医療団千鳥橋病院

中村 桜 (OT23期卒)



私が呼吸療法認定士の資格取得を目指したきっかけは、入院直後で病態が安定しない方、急性増悪等により入退院を繰り返す方の生活マネジメントを行うにあたり病態生理と治療の理解は必須の知識であり、それをもとにOTとしての専門性を活かしていきたいと考えたからです。

えたからです。

私は現在総合病院に勤めており、超急性期～慢性期の内部障害の方を中心に診療にあたっています。ここでは、超急性期での早期離床に向けた取り組みや、状態が落ち着いた後、在宅生活を送るにあたってセルフ

マネジメント支援を行うことが重要でした。日々の業務と生活の中での勉強時間の確保は非常に大変でしたが、学んだ内容を基礎として、現在は高次脳機能面や精神・心理面、ADL・IADL面等をOTの専門性として強みにしながら、評価・治療を行っています。PTなどの多職種と協働して診療・患者教育・退院支援にあたっており、試験勉強を通して学んだ知識は非常に役立っている実感があります。

超高齢社会を迎えた日本では、呼吸器疾患や心疾患など、重複障害を持つ方は非常に多いです。より広い視点で関われるきっかけになる資格だと思っておりますので、お仲間大募集しております！

挑戦と創造

—リハビリテーション専門職がハードアウトカムを変える時代に—

京都大学医学部附属病院

濱田 涼太 (PT18期卒)



日本造血・免疫細胞療法学会 若手優秀研究賞 授賞式

リハビリテーション専門職が患者さんのハードアウトカム（生存率など）を変える時代に到達し、チーム医療におけるリハビリテーション専門職はより重要な立場となった。この新時代の幕開けに伴い、日常臨床にて蓄積したデータを用いた結果を本邦のみならず世界に発信していくことはリハビリテーション医学の発展に欠かせない。「研究」というとハードルが高く、大変な印象もあり、そういった一面があるのも事実ではある。ただ、自分の臨床疑問を基盤に研究計画を立案し、探索・

検証を進めることはその領域のトップランナーを目指す上では必要になってくる。何事も初めて行う時が一番大変であり、幾つもの壁を越えるために挑戦をしないとイケないが、一方でそういった経験を一度でもすると次に同じことを行う時のハードルはかなり下がり、結果として自身のスキルアップにも繋がる。私は主にはがん（血液疾患）、内部障害を中心とした臨床研究を進め、学会発表や論文投稿など積極的に行っており、そういった活動が少しずつ芽を出し始め「日本造血・免疫細胞療法学会 若手優秀研究賞」を受賞することができた。今年度からは科研費（基盤研究C）を活用して新たなリハビリテーション適応の拡大や戦略の創造に向けた挑戦を開始している。特に研究に興味のある先生、ぜひ色々なことに挑戦し、新たなスキルや領域を創造していただければと思います。

書籍紹介

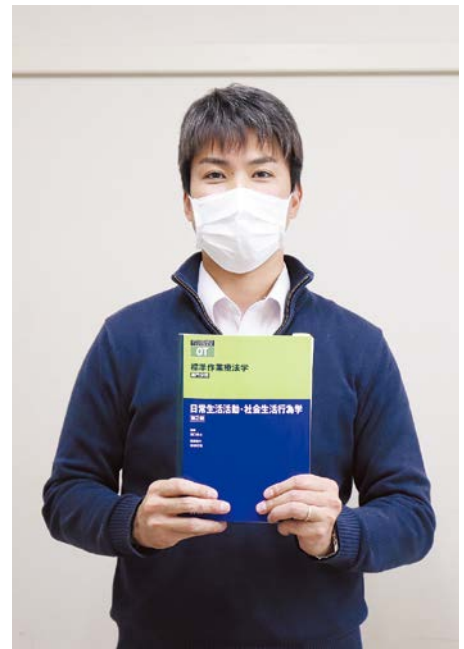
標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・社会生活行為学 (第2版)

土佐リハビリテーションカレッジ
作業療法学科

桂 雅俊 (OT15 期卒)

2021年11月、全く接点のないとある大学の有名な先生から電話をいただきました。内容は、「来年度、改訂する書籍の執筆をお願いできませんか」とのことで、寝耳に水とはまさしくこういうことをいうのだろうと感じ、非常に嬉しく思ったと同時に大変、重責のある依頼を受けたという漠然とした不安感もありました。本書は、作業療法士養成施設の学生向けテキストとしてシリーズ化された全12巻の内の1つであり、作業療法を語るうえでは外すことのできない、日常生活活動や社会生活行為についての評価・支援プログラム・事例演習および装具なども含めた環境面でのポイントについて具体的かつ実践的にまとめられています。

私自身は、「社会生活行為の支援；コミュニティ・遊び」を担当し、生活行為向上マネジメント (MTDLP) の視点からみた捉え方について、解説しております。この中で、特に事例演習の執筆に関しては、同期の國友 晃氏 (愛宕病院) の協力なくしては、書き上げることができませんでしたので、この場をお借りして改めて心より感謝を申し上げます。本書が養成校での教育は勿論、臨床実習などで先生方のご指導の一助になれば幸いです。



論文紹介

国際誌に論文が掲載されました

土佐リハビリテーションカレッジ
作業療法学科

稲富 惇一 (OT15 期卒)

論文が昨年 Journal of Sensory Studies に「Soy sauce and vanilla odors improve balance ability in children」、一昨年 Asian Journal of Occupational Therapy に「The Importance of Motor Imagery Ability in Determining the Optimal Focus of Attention During Motor Practice」というタイトルで掲載されました。私は現在大学院の博士課程に在学しており、感覚入力とバランスをテーマに研究しています。2本ともテーマに沿った内容で、嗅覚とバランス、聴覚とバランスに関する論文となっていますのでよろしければご一読ください。論文掲載までに、担当いただいている山口教授に大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

今でこそ2本通りましたが、私は中学校の時に英検4級を落ちるほどの英語力であり、また論文の書き方も甘かったため、一昨年の論文は雑誌に投稿するものの悉く落ち、その数は7回にもものぼります。そこで得た経験を活かし、昨年の論文は1つ目の雑誌でアクセ



プトされました。これらの経験を皆さまに還元できればと思っていますので、研究をデザインする・論文を書くなどお力になれることがありましたらご一報ください。これからも一緒に頑張っていきましょう！

2022年度の「公益信託高知新聞・高知放送^{いのち}生命の基金」の助成対象として、本校教員3名の研究が採択されました。本基金は1989年に設立されたもので、地域社会における医療の進歩や福祉の向上を目的に、高知県における医療振興を図る諸活動の奨励や助成を行っている基金です。本校教員や卒業生の研究は過去にも複数の助成採択をいただき、それぞれ医療や福祉の進歩や向上の一助となっています。

写真は2023年3月29日に高知県立県民文化ホールで行われた贈呈式で撮影されたものです。式典で、今年度は過去最多44件の応募があった中で26件が採択されたことや、基金の設立の趣旨や信託の目的、助成金の仕組みなどの説明を受ける中で、今回助成いただくことに対する感謝や責任を深く感じることができました。責任をもって研究を進めることで、しっかりと助成金による成果を県民に還元できるように尽力いたします。



◆岡部 孝生 (PT1期卒)

「成長期における身体機能測定を通じたスポーツ障害予防への取り組み」(50万円)

中高生を対象とした身体機能測定項目の中に、超音波画像診断装置や体組成計を導入することで、効果的なトレーニングの提案やスポーツ障害予防につなげる予定です。

◆奥田 教宏 (PT9期卒)

「慢性疼痛者に対する痛み軽減方法の探索と理解の啓発活動」(50万円)

痛覚計を導入することで慢性疼痛者に対する痛み軽減方法を探索すると同時に、慢性疼痛の理解を県民に深めてもらうための啓発活動を行う予定です。

◆桂 雅俊 (OT15期卒)

「一般介護予防事業における認知的フレイルの早期発見に向けた取り組み」(15万円)

これまで取り組んできた身体的フレイル改善を基盤として、さらに認知的フレイルの改善にも取り組むために認知機能測定&訓練機(ペグ・アモーレ)を導入する予定です。

学会の報告とお知らせ

高知県作業療法学会「優秀演題賞」

近森リハビリテーション病院

横山 英里 (OT24期卒)

今回、第17回高知県作業療法学会にて優秀賞を受賞させて頂き、とても嬉しく思います。初めての学会発表を通して、たくさんの経験を得ることが出来ました。「左半側空間無視と着衣障害を呈した女性の更衣動作獲得に向けて」という発表を通して、回復期リハビリにおける生活動作獲得の重要性を再確認することが出来ました。身体機能だけでなく高次脳機能障害との関わりを考察していく中で、まだまだ疑問点が残る箇所もあるので、これからの臨床場面でも継続的に学びを深めたいと思います。今回の発表を機に、リハビリを行う上で患者様の生活の質を高めていくことはもちろん、専門

知識や技術の向上に努め、より包括的な支援を行えるよう目指していきます。

またこの場をお借りして、お忙しい中ご指導頂きました先生方には心より感謝申し上げます。今後も日々勉強しながら、患者様に寄り添えるような作業療法士を目指していきたいと思います。



第57回 日本作業療法学会を発表して

サンテ・ペアーレクリニック

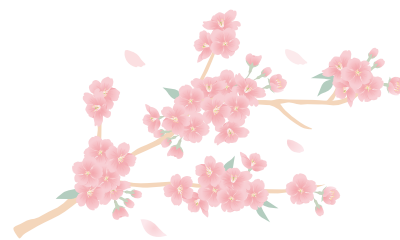
岩井 萌 (OT24期卒)

今回、『課題分析をともに行うことで合意目標の獲得に至った症例—発達性協調運動症児の自転車運転獲得を目指して—』についてポスター発表で参加しました。

発表は「自転車に乗って中学校へ行きたい」ことを希望している対象児と一緒に、課題分析やプログラム立案を行うことで、目標を達成した内容になっています(詳細は第57回日本作業療法学会抄録集よりご覧になれますので一読いただければ幸いです→https://jaot.mas-sys.com/JOTC57_Abstract/home.html)。当日は多くの方が見に来て下さり、意見交換ができました。特に印象に残っていることは、自転車に乗れないお子さんが多いこと、環境やリスクの観点からOTとして治療介入ができないことでした。一人ひとりの働いている環境により治療介入の相違があることを知ることができ、私だったらどうするだろう?と考える良い経験になりました。

私は“発表”という形にすることで、日々、自分のしてい

るリハの振り返りができ、たくさんを学び、成長させてくれる患者様への感謝の気持ちを表現することができると思います。また、様々な方とお話することで刺激を受け、OTの楽しさや良さを感じ、今後の意欲にも繋がりました。私は今後も臨床で“患者さんとともに成長していけるOT”になれるよう頑張りたいと思います。



第57回日本作業療法学会に参加して

デイサービススタイル

住江 知昭(OT23期卒)

今回、沖縄県にて開催されました第57回日本作業療法学会にポスター発表で参加させていただきました。学会会場では先生方と近い距離で話す事ができ、新たな知識や考え方を得る事ができました。学会期間中に会った先生方から「今後、住江さんはどんな事を挑戦してみたいですか?」と質問を受ける事が特に多かったです。その際、学生の頃から今に至るまで目標としている『地域で働く作業療法士の可能性を広げたい』という思いを会った全ての先生方に伝えました。すると、先生方から厳しいお言葉を受けることは一度もなく、共感していただける方々ばかりでした。学会会場にいられている方々は作業療法士という仕事が好きな方々ばかりであり、作業療法士の未来について意見交換をする事ができ、貴重な時間を過ごす事が

できました。今後は大好きな高知県で起業を目指して行動していきたいと考えております。『作業療法士&起業家』という自分像を創りながら、これからも学術活動は続けていきたいと考えております。この場をお借りしまして、ご指導いただきました先生方、学会会場で出会った先生方、貴重な経験やご意見をいただき本当にありがとうございました。



第21回 日本神経理学療法学術大会・日本神経理学療法学会地方会に参加して

近森リハビリテーション病院

門脇 一弘(PT学科19期卒)

私は、横浜で開催された第21回日本神経理学療法学術大会にて、「左半側空間無視患者に対する入院早期からの視覚探索課題の効果－症例報告－」という題目で、ポスター発表を行いました。発表までの準備は苦労しましたが、職場の先輩や上司のおかげで、何とか発表へ至ることができました。当日は、緊張もありましたが、たくさんの質問も頂き、次への課題なども見つけたり有意義な時間を過ごすことが出来ました。今後も患者様のために真摯に向き合い、自己研鑽に努めていきたいと思っております。

話は変わりますが、現在、私は日本神経理学療法学会の高知地方会のメンバーに登録させていただきました。高知健康科学大学の渡邊先生から、「高知県内の人と、脳卒中について一緒に考えてみん?」とお誘いがあり、参加させ

て頂く事となりました。地方会のメンバーは高知県の東から西まで、他施設の方と日々の臨床の疑問点や高知県の課題などの議論を行い、各地方に合わせた神経理学療法の発展、学会の求心力向上を目的としています。他施設の方と日々の臨床などをディスカッションできるのは刺激となり、こういった活動を通して日々精進し、日々の臨床場面へ繋げていけたらと思っています。



第51回四国理学療法士学会を終えて

テーマは「臨床を科学する」として、完全対面の学会を開催しました。当初は県外の参加者が少ないのではないかと非常に心配でしたが、嬉しいことにコロナ禍以降の四国理学療法士学会で最も多い参加者数となりました(一昨年の香川開催320名、昨年の徳島開催330名、今年の高知開催550名)。これは、大会長の島岡秀奉先生(本校1期卒)の仲間を惹きつける力によるものだと感じました。学会開催2年前から準備が始まり、学会長自らホームページを作成し、学会当日も複数の司会を務められ、そして最後の一般演題を学会長が発表して締めくくるといふ多忙な姿を背中で見せていただきました。その他の多くの運営スタッフにもご協力いただけたことで、無事に開催できました。深く感謝申し上げます。学会当日は「久しぶりに

第51回四国理学療法士学会 準備委員長
土佐リハビリテーションカレッジ 渡邊 家泰(PT16期卒)

仲間と再会できたわー」「元氣湧いてきた!」「やっぱ対面やね!」と嬉しい声もたくさん聞こえました。オンラインも便利で良いですが、逆に会える時にしっかり会って話すことは必要だなと実感しました。最後は、学会長の胴上げ写真で締めくくりましょう!この機関紙を読んでいただいている皆さん、また学会でも、卒業生同士で会いましょう!



第37回 高知県理学療法学会 開催にあたり

～理学療法の未来図～

学会長 **竹林 秀晃**(PT1期卒) 準備委員長 **奥田 教宏**(PT9期卒)

この度、第37回高知県理学療法学会を令和6年3月24日(日)に開催致します。開催方法は、本校において対面とWeb配信のハイブリッドで開催しますので、県外の方も参加をご検討ください(セミナー番号:116067)。本学会のテーマは、「理学療法の未来図」としてありますが、未来を予測するためには、何が必要なのでしょうか?今までの歩みを振り返ることも大事ですが、この変化の激しいVUCAの時代においては、過去の実績や現状や課題から未来を考えるのではなく、**ありたい姿/あるべき姿を描いたうえで、そこから逆算し“いま何をすべきか”を考える思考「バックカスティング:Backcasting」**が必要だと感じています。

特別講演Iでは、畿央大学大学院 健康科学研究科教授の森岡 周先生に「未来への舵取り～2040年の理学療法～」というテーマで未来の理学療法について講演いただきます。特別講演IIでは、高知工科大学情報学部教授の繁樹 博昭先生に「身体と空間知覚」というテーマで、バーチャルリアリティの活用による脳のシステムと自己身体の変化に関する研究を通じてリハビリテーションの未来について講演いただきます。

高知県理学療法士協会会員のみならず、県外の多くの方にも参加頂きたいと思っております。取得ポイントは、登録理学療法更新ポイント(カリキュラムコード2 リハビリテーション医学・医療:6ポイント)もしくは認定・専門更新ポイント6点と多くのポイントも取得可能です。

現地もしくはWeb上で皆様とお会いできることを楽しみにしております。

第37回 高知県理学療法学会
The 37th conference of The Kochi Physical Therapy Association 2024.

理学療法の未来図
学会長 竹林 秀晃 (土佐リハビリテーションカレッジ)

— 事前参加登録のご案内 —

- 期 日: 令和6年3月24日(日)
- 開催形式: 対面とWebのハイブリッド開催
- 会 場: 土佐リハビリテーションカレッジ (高知県高知市大津乙2500-2)
- 特別講演 I: 「未来への舵取り～2040年の理学療法～」
講師 森岡 周先生 (畿央大学大学院 健康科学研究科 教授)
- 特別講演 II: 「身体と空間知覚」
講師 繁樹 博昭先生 (高知工科大学 情報学部 教授)
- 発表演題: 一般演題 (30題予定)
- 申し込み方法: PT協会マイページ (<https://mypage.japanpt.or.jp/mypage/login>) → 生涯学習管理 → セミナー検索 → セミナー番号 (番号: 116067) 入力 → 申込み

履修ポイント: 登録理学療法更新ポイント (カリキュラムコード2 リハビリテーション医学・医療: 6ポイント) もしくは認定・専門更新ポイント6点

参加費		
	事前登録	当日参加
高知県PT協会会員	1,000円	2,000円
高知県PT協会体会員	1,000円	2,000円
県外PT協会会員	3,000円	3,000円
PT協会非会員	10,000円	10,000円
一般・関連職種	3,000円	3,000円
学 生	—	無 料

— 事前申し込み期限 —

クレジットカード
2024年3月21日(木)
現金振り込み
2024年3月 1日(金)

【お問い合わせ先】
第37回高知県理学療法学会 準備委員長 奥田 教宏
土佐リハビリテーションカレッジ E-mail: ptcr.okuda@tosareha.ac.jp

第24回(2024年度)認知神経リハビリテーション学会学術集会のご案内

大会長 愛宕病院
沖田 学

準備委員長 愛宕病院
國友 晃(OT15期卒)

作業療学科15期卒業の國友晃と申します。所属している認知神経リハビリテーション学会の第24回学術集会(#JSNCR2024)の準備委員長を務めております。このような機会をいただけたため、学術集会の紹介をさせていただきます。学術集会概要については別紙をご参照ください。認知神経リハビリテーションでは、運動とは認知であるという身体と環境との相互作用の考え方を柱に、対象者の身体知覚や意識経験を分析して臨床介入を行っております。

「運動とは認知である」という言葉を聞いたら、どのようなイメージが浮かぶでしょうか?運動は出力で、認知は情報入力後の産物だと感じる方もいるかもしれません。しかし、最近の研究では、一次運動野には感覚情報も上行することが明らかになっています(Naito,2016)。これらは従来の臨床介入に問いかける話題となっています。さらに哲学者のメルロ=ポンティは心(精神)あるいは脳は「身体化されている」つまり、身体こそがあらゆる意味生成の根源である(宮本,2006)と示唆しています。本学術集会では、脳科学だけでなく哲学など多様な学問か

ら臨床介入を考える取り組みを行っております。

最後に本学術集会は、多職種及び他分野の方々が参加されます。皆様と共に学び合い、治療者として成長できることを楽しみにしております。



第24回認知神経リハビリテーション学会学術集会
会期: 2024年11月30日(土)-12月1日(日)

学会長: 沖田学(愛宕病院) 準備委員長: 國友晃(愛宕病院)

会場: 高知医療学院(高知市長浜)
<https://twitter.com/etccongress2018>

形式: 対面/オンライン

運営: 四国認知神経リハビリテーション勉強会

様々な情報を随時HP・SNSで公開

https://www.instagram.com/jsnrcr2024/?utm_source=qr

<https://jsnrcr.jp/>

(一社)日本作業療法士協会 理事就任

有限会社総合リハビリ研究所、株式会社リボン

土居 義典(OT7期卒)

本校を1999年に入学し当時協会理事でもあった片岡愛子先生が担任であり、1人目の恩師でもありました。2003年に卒業しその後9年経過した2012年から、本協会の制度対策部介護保険対策委員会(当時名)の委員に就任しました。当時新卒時から勤務していた(株)創心會の二神雅一社長から推薦していただき、訪問看護ステーションにおけるリハビリテーション分野の担当委員になりました。当時の上司であり2人目の恩師からの声かけで、本協会での活動が始まりました。協会活動と同時に人間関係が広がり、6代目山本伸一会長が当時は制度対策部部長の就任時に出会い渉外活動の大切さを学びました。またOT学科の1期生である藤岡晃医療課課長とも同じ部会で出会い、良き指導者でもあり協会活動のメンターとして現在に至っても支えていただいております。

す。上記のような経過や、支えていただいた人間関係の中で協会理事として就任させていただきました。



協会活動の前半7年間は委員として活動し介護保険の要望書作成、その根拠となるモニター調査、制度改正時の説明会が主な業務でした。その中で2019年から同委員の委員長となり、2023年から理事へ就任となりました。一貫して制度要望における作業療法士の地位向上が私のテーマになっております。その中で近年では県士会、協会共に会員構成員が減っている状況へも、私の専門性を活かして立案したいと考えております。

PT・OT協会ならびに各都道府県士会での役員紹介

未来会会員のなかで、役員(会長、副会長、理事)をされている方々を事務局の方で把握させていただき、機関誌やホームページなどへ、今後その活動(活躍)を掲載していくことを目的にアンケートを実施させていただきました。

Googleフォームで実施いたしましたが、全会員には行き届いていないと思いますので、ご回答がまだお済みでない方は右記のQRコードよりご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。



<https://forms.gle/wgaSc7CzQDiWSkwE7>

2023年12月28日時点で以下の方々にはご回答をいただいております。ご協力ありがとうございました。

氏名	役職名	所属施設名	所属の都道府県	卒業期
竹林 秀晃	理事	土佐リハビリテーションカレッジ	高知県	PT1期卒
細田 里南	理事	高知大学医学部附属病院	高知県	PT2期卒
浅川 英則	会長	久病院	高知県	OT3期卒
姫田 敬	理事	だいいちリハビリテーション病院	高知県	OT5期卒
岡村 忠弘	副会長	NPO法人脳損傷友の会 高知青い空	高知県	OT6期卒
土居 義典	理事 (OT協会、千葉県士会)	有限会社総合リハビリ研究所、株式会社リボン	千葉県	OT7期卒
稲富 惇一	理事	土佐リハビリテーションカレッジ	高知県	OT15期卒

MTDLP推進協力強化校の承認

土佐リハビリテーションカレッジ 作業療法学科

桂 雅俊(OT15期卒)

この度、本校のOT学科が日本作業療法士協会の定める「生活行為向上マネジメント推進協力強化校」として、認定されました。昨年度の機関誌では、推進校の承認の報告をいたしました但それに加えて、臨床実習ならびに症例報告書(レジュメ)などでの積極的な取り組みが認められ、この度ワンランク上の承認へとつながりました。改めてこの場をお借りしまして、日頃から本校の臨床実習に多大なるご協力を賜っております多くの未来会会員をはじめとした実習指導者の方々に深く感謝申し上げます。

生活行為向上マネジメント(MTDLP)とは、他職種や一般住民に分かりやすく地域包括ケアに貢献できる作業療法の形を示す目的で、開発された実践ツールのことです。現在、全国の作業療法士がMTDLPを活用し、作



業療法の見える化を通して国民に広く周知されることで、職能団体としての地位向上に努めています。

2023年度時点で、全国の養成校203校のうち、「MTDLP推進協力強化校」に認定されているのはわずか10校と少数です。今後は、この認定に違わぬよう教員陣一同で、地域包括ケアに資する作業療法士の育成・指導に向けてより一層尽力して参りたいと思います。

認定PT臨床認定カリキュラム教育機関が開催されるまで

教育機関責任者 土佐リハビリテーションカレッジ

渡邊 家泰(PT16期卒)

「高知県に認定PTを取得するための教育機関がないから作ってくれん？」と、他施設のお世話になっている先生から締切3週間前に相談を受けたことが始まりでした。申請方法を調べてみると、教育機関は20コマ×90分の研修会を、実績のある講師30名(履歴書審査あり)に依頼する必要があり、最初私は開催を諦めかけていました。その状況で竹林副校長から「大丈夫やる!やろう!」の一言で、準備する方向で動き出しました。その時の私の心境は「この副校長は無茶苦茶なことを言うもんやな…」「残り3週間で急な講師依頼を誰が引き受けてくれるの?」「講師料もいくら払えるか読めない(受講者数で変わるため)なかで引き受けてくれるの?」「依頼する卒業生の多くは自分より先輩になるから恐縮やな…」



等々の不安に包まれていました。しかし、実績のある先輩方とやる気のある若手療法士30名は直ぐに集まり、竹林先生の読みは当たっていました(すいませんでした)。この時、土佐リハ卒業生の結束力、想いは本当に凄いと実感した瞬間でした。ご協力いただいた方、お話を聞いていただいた方に感謝申し上げます。卒業生と協力し、より良い卒後教育にもしっかりと関われる学校にしていきたいと思います。

理学療法学科 7期卒の同窓会

於:2023年9月16日(土) 高知会館

幹事:小林 功宜(中国電力株式会社中電病院)、岡林 賢史(みちなか整形外科クリニック)



理学療法学科7期卒の同窓会を2023年9月16日(土)に高知会館にて開催しました。同期での同窓会は14年ぶり2回目の開催で、参加者の内訳は県内6人、県外5人、教職員5人の計16人でした。同期は県外の出身者が過半数を占めていたこともあり、県外から多数、参加していただきました。同窓会では前半に幹事の私から「理学療法士21年の軌跡とこれからの未来について」と題して30分間の講演を実施しました。講演では私が理学療法士として臨床場面で今まで取り組んだことや院内活動としての県士会、連盟活動、プライベートについて報告しました。また同期の現状を同窓会の参加の有無に関わらず、事前に報告してもらい、その内容を動画にして、会場で放映しました。全国各地で仕事やプライベートに活躍している姿をみて、情報共有するこ



とができ、有益なものになりました。

懇親会では、7期卒業時の担任の宮本謙三先生より挨拶をいただき、会を盛り上げていただきました。今回の同窓会は突発的に企画したにも関わらず、参加者からは貴重な機会を設けてもらいありがたいと言ってもらえました。今回の参加者数は卒業時の1/3であったので、次の同窓会は、より多くの人数で開催できることを望みます。最後になりましたが、今回は同窓会の開催を同期のグループLINEのみで広報したため、お知らせが届いていない人もいたと思います。この場を借りてお詫び申し上げます。次回は5年後か7年後を予定していますので、同期のLINEへ参加・登録をお願いします。この度は勝手ながら幹事を務めさせていただきましてありがとうございました。 文責:小林 功宜

同窓会補助について

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響によりここ数年、対面での活動自粛が余儀なくされてきましたが、5類感染症への移行に伴い対面での活動が徐々に許容されつつあると思います。未来会では、従来より会員相互の交流を活性化するため同窓会を開催する際に援助をしております。また、各卒業期の集まりだけでなく、複数期の集まり例えば関西地区の卒業生の集まりなども歓迎します。開催条件と補助額は以下の通りです。

未来会としては、卒業生相互の交流を活性化するために同窓会を開催する際に援助いたします。

開催条件は以下の通りです。

- ・事前・事後報告書の提出
- ・懇親会のみではなく、勉強会とセットで行うこと(懇親会のみでは補助はしない)
- ・勉強会の条件 時間は30分以上
1時間を超える場合は、時間に応じて講師代としての補助(時間単位での支給であり、講師数には関係ない)
1時間~1時間30分:5,000円 以上、1時間30分ごとに5,000円追加

*勉強会の場所は、学校が望ましいが、絶対ではない。

例:懇親会会場で行い、そのままそこで懇親会を行う場合も可。

- ・参加者への補助 県内の参加者 1,000円、
県外の参加者 3,000円の補助
(県外の人に参加しやすいようにするため)
- ・参加者に本校教員がいる場合、各期各学科 5,000円
- ・補助は、5年に1回

各期や学科合同、複数期合同の同窓会などを開催する際には、未来会事務局まで問い合わせてください。

高知健康科学大学 開学

土佐リハビリテーションカレッジ

校長 宮本 謙三

文部科学省に認可申請していました「高知健康科学大学」の設置が、令和5年10月に正式に認められました。以前から土佐リハの大学化を検討してきましたが、念願がかない令和6年4月に開学いたします。これまでのご支援に感謝を申し上げ、ご期待に応えられるよう更なる努力を重ねていきたいと思います。未来会の皆さんからは、大学設置に際して多くの寄附金を頂きました。紙面を借りて御礼申し上げます。また、多くの卒業生からも個人の寄附金が寄せられています。本当にありがとうございます。

大学設置に伴い「土佐リハビリテーションカレッジ」は、現在の1年生が卒業する令和9年3月をもって閉校となります。校名が変わってしまい少し残念ではありますが、法人名は「土佐リハ学院」のままですので、高知健康科学大学も引き続き母校として応援していただきたいと思ひます。宜しくお願ひいたします。

なお、新しい大学の学長には、広島大学大学院教授の宮口英樹先生（前日本作業療法士協会副会長）をお招きしています。そして健康科学部の学部長には竹林秀晃先生（未来会会長）が就任いたします。現校長の宮本は校長職とともに学校法人の専務理事として法人運営の舵取りを担う予定です。その他の先生方も皆さんこれまで通り教壇に立ち、教育研究に邁進していく決意です。未来会の皆さんも引き続き「土佐リハ・高知健康科学大学」を宜しくお願ひいたします。



2024年4月開学!

健康に貢献する大学、はじまる。

高知健康科学大学

学校法人 土佐リハ学院
高知健康科学大学
University of Kochi Health Sciences

健康科学部 リハビリテーション学科
● 理学療法専攻 ● 作業療法専攻

〒781-5103 高知県高知市大津乙 2500-2 TEL:088-866-6119 Web:www.ko-ken-k3.jp





らくらく連絡網への登録のお願い

未来会では、「未来会会員の連絡網」を作成しています。連絡網の手段として、無料のメーリングリストサービスである「らくらく連絡網」を利用しています。出来るだけ多くの卒業生に登録してもらい、色々な情報の発信をと考えています。まだ登録されていない方は、以下の手続き方法を確認の上、手続きを行ってください。出来るだけ多くの卒業生に協力頂けると幸いです。

以上、大変お忙しいところお手数をお掛けしますが、よろしくお願ひします。

《対象》 全会員（PT / OT・県内外問わず、1～28期までの卒業生全員）

《方法》

▼① 空メールを送信する。

未来会 PT 登録用のアドレス
16234137@ra9.jp

未来会 OT 登録用のアドレス
16388898@ra9.jp

※ PT/OT で送信するアドレスが違うのでご注意ください！ ⇒空メール送信後、直ぐに「らくらく連絡網」から返信が届きます。

▼② 返信されてきたメールの指示に従い、手続きをおこなう。

返信メールの本文内に掲載されている URL をクリックし、画面下にある“同意する” をクリックしてください。その後、メールアドレスや氏名（フリガナ）、性別、所属（病院・施設名）、電話番号、生年月日等の必要事項を記入して頂く必要があります。必要事項が記入できましたら、“登録” をクリックしてください。登録ボタンクリック後、登録手続き完了の画面になりましたら、その画面は閉じて頂いて構いません。

▼③ 再び「らくらく連絡網」からの返信（「メンバー登録完了」の旨の）を確認する。

「メンバー登録完了」の返信メールは1～7日かかる場合があります。「メンバー登録完了」の返信に記載されている個人専用のページのアドレスをブックマーク登録しておくと、今後便利です。

注) いずれの手続きも、PC からもスマートフォンからも行えます。しかし、スマートフォンで行う場合、PC からのメールを拒否設定している方はそれを解除してもらう必要があります。

もちろん、上記連絡網は未来会の活動に関する連絡事項通知すること以外での使用目的で使用することはありません。

※ らくらく連絡網について詳しく知りたい方はホームページ（<http://www.ra9.jp/>）をご参照ください。

※ 無料の ML を使用しているので、各種広告メールが添付されていることがありますが、ご了承ください。



LINEへの登録のお願い

数年前より「らくらく連絡網」以外の連絡手段として公式 LINE アカウントを活用してきました。その公式ラインアカウントの料金プランが、この度 2023 年 6 月に改定されることになりました。それに伴い、これまで土佐リハ未来会 PT（1～25 期卒用・26 期卒～用）、土佐リハ未来会 OT（1～25 期卒用・26 期卒～用）の 4 つに分けていたアカウントを、「土佐リハ未来会」1 つのアカウントに一元化させて頂くことになりました。つきましては、右の QR コードから友だち追加をお願いします。

これまでに登録して頂いた方も、再度友だち追加をお願いします。

土佐リハ未来会



<https://lin.ee/KuVYMBG>

